

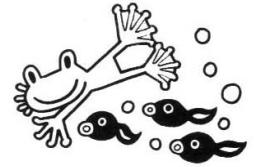
谷津田のこと・田んぼのことを知る 3冊

高山邦明（千葉市緑区）

谷津田のことをもっと知りたいと考えていらっしゃるみなさんにとっておきの3冊をご紹介します。

「里やま自然誌-谷津田からみた人・自然・文化のエコロジー-」 中村俊彦著 マルモ出版（2004年）

谷津田って何？どんなところ？どうやってできたの？ そんな疑問に答えてくれるのがこの本です。谷津田についてまとめて書かれた書籍は他に見当たらず、これが唯一でしょう。前半で谷津田の自然、そこに暮らす動物や植物のことが紹介されていますが、美しい写真やイラストをふんだんに使って見るだけで里やまのことがわかるように配慮されていてすぐにでも田んぼへ行ってみたいくなります。後半は里やまと人との関わりについて解説されており、歴史的な背景、子どもと里やま、里やまの置かれた現状、未来に向けた保全のあり方がわかりやすく書かれています。下大和田でのちば環境情報センターの活動の写真もたくさん紹介されています。著者の中村さんは植物生態学がご専門で千葉県立中央博物館の副館長を務められており、ちば・谷津田フォーラムの代表として下大和田の活動を支援いらっしやいます。



「いのちが集まる・いのちが育む「田んぼの学校」入学編」 宇根豊 農文協（2000年）

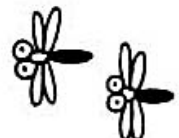
「きみは田んぼの上を吹く風だ」、「メダカになろう」、「水になって小川を流れてみよう」・・・田んぼの生きものや自然の視点から田んぼのことを紹介するというユニークな文章はとてもわかりやすく、読んでいていつのまにか自分が田んぼの中にいるような気分になります。しかも、米づくりのことや生きもののが図を使って詳しくかつわかりやすく書かれていて、田んぼのよい参考書にもなります。クイズが随所に入っているのもおもしろいですね。たくさん使われているイラストは素朴で優しく、田んぼのイメージが柔らかくわいてきます。最後に田んぼの学校の開設ガイドがあり、これから田んぼでの活動をはじめようとする人に役立ちます。田んぼのことを知るための決定版という感じの一冊です。



「水田の生物をよみがえらせる-農村のにぎわいはどこへ-」 下田路子 岩波書店（2003）

著者の下田さんは農家に生まれ、大学で植物を研究し、生物の調査や生態系の保全に関わる仕事をしておられ、その経験に基づいた話がちょっとかたい題名から受ける印象とは違ってエッセー風にとっても読みやすく書かれています。高度成長期から今までの農村の変化、影響を受けて変わってきた田んぼの生態系の様子、その危機的な現状が体験を交えて記述されているのでとても説得力があります。図表によるデータの紹介、生物名の正確な記述、引用文献リストの添付などは生物を相手に研究、調査をしていた下田さんならではの、谷津田の生きもの調査をしている私たちにとっても役立ちます。田んぼの自然は人との関わりの中で豊かな生態系が維持されてきた点が繰り返し強調されていて、福井県中池見の事例をもとに自然保護活動の中で田んぼの自然を対象にすることの難しさ、その克服の方策が紹介されており、谷津田の保全活動を進める上で大変参考になる本です。

（いずれの本も身近な図書館に置いてあると思いますので探してみてください）





里山たんけんレポート

第 88 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年5月6日(日) 雨

雨の観察会になりました。谷津田はオオヨシキリとシュレーゲルアオガエルの声が響き、コジュケイ、ウグイス、セグロセキレイの音が盛んにしていました。虫たちは雨を避けて殆ど姿を現しませんでした。そんな中、たまたま見つけた虫はじっくり観察したり、写真を撮ったり、と 雨中の観察も捨てがたいものでした。ヒメクロオトシブミやエゴツルクビオトシブミが葉裏に雨を避けている姿も見られました。ナガミヒナゲシがはびこってきたのと観賞用の赤紫のカタバミが路端に咲いていたのが綺麗ではあるのですが気がかりました。

(参加者 大人3名; 報告: 網代春男)

第 72 回 下大和田 YPP「コシヒカリの田植え」

2007年5月13日(土) くもり

今年で7年めの米づくり。いつものように道路沿いの2枚の田んぼにコシヒカリを植えました。たくさん集まってくれた親子がロープに沿って一列に並んで一斉に植えていきます。7年連続参加の人も今年が初めての人もおしゃべりに花を咲かせながらにぎやかな田植えです。コシヒカリ田んぼを植えたところでお昼になり、林の中でゆっくりとお弁当を食べてからカヤネズミ田んぼに移りましたが、みんな慣れてきてこちらはあっという間に植え終わりました。最初は泥が手に着いた



元気いっぱいの泥んこあそび!

ただけで気持ち悪そうな顔をしていた子どもたちも、最後には古代米を植える田んぼで泥んこ遊びが始まって全身泥だらけ。最後の記念撮影ではその勇姿がバッチリ記録に残りました。シュレーゲルアオガエルのカスタンネットのような鳴き声がとても気持ちよい初夏の谷津田でした。

(参加者 大人33名 幼児5名 小学生13名; 報告: 高山邦明)

第22回 小山町YPP「苗代づくり」

2007年5月6日(日) 雨



雨にも関わらず集まってくれたメンバーで田んぼに泥を盛って苗代を作り、水に浸けて芽出した赤米、黒米、緑米そして農林1号をまきました。泥を均しているともうじき羽化するシオカラトンボやまだ小さなアカネトンボの仲間のヤゴがうごめいていました。鳥に食べられないようにネットを張って完成。生長が楽しみです。

(参加者 大人5名、小中学生2人; 報告: 高山邦明)

第23回 小山町YPP自然観察会

2007年5月20日(日) 晴れ

さわやかな晴天に恵まれて気持ちのよい谷津田散策でした。みんなで復活させた田んぼではシッポがなくなったばかりのちびアカガエルがピョンピョンたくさんはねていました。今年の2月上旬の夜の田んぼに産み付けられたことを思い出すとその元気な姿に感激もひとしおです。斜面林ではウツギ(ウノハナ)が咲き始め、スイカズラもつぼみを膨らませていました。田んぼの近くで見つけたノウサギのミイラにはびっくり。子どもたちは恐る恐る近づいて「何で死んじゃったんだろう?」と考えながら観察していました。女王バチが一人で巣作りをはじめたばかりのアシナガバチを見つけるなど発見がいっぱいで、予定していた田んぼの整備をする時間がなくなってしまいました。

(参加者 大人10名、小学生6人; 報告: 高山邦明)



巣作りを始めたアシナガバチを発見!

谷津田・季節のたより

下大和田

5月 5日(土) 田んぼでセグロセキレイの親が餌を採り近くに止まって待つヒナに与えている様子を目撃。水路沿いにはたくさんのカワトンボの姿があった(高山)

5月25日(金) 田んぼの畦でヘイケボタルが光っていた(金谷)

5月27日(日) クヌギの樹液に夜コクワガタがたくさん集まっているのを目撃(田中)

小山町

5月 6日(日) 田んぼに長いシッポが残ったアカガエルの子どもの姿(高山)

5月12日(土) まだ尾が短いヒナを連れたエナガの群れを目撃。ホオノキの大輪の花が咲く(高山)

5月20日(日) 斜面林でハンショウヅルが咲く(高山)

5月26日(土) 斜面林でウツギやガマズミ、スイカズラ、ヤマボウシなど花盛り。モミジイチゴの実が食べ頃。足元でドクダミも花を開き始める。上空を鳴きながらサシバが飛翔し、田んぼではキセキレイ親がヒナに給餌(高山)



セグロセキレイの親がヒナに給餌



ハンショウヅルの花

谷津田いきもの図鑑 No.6 「シュレーゲルアオガエル」

春、田んぼに水が入ると最初に鳴き始めるのがこのカエル。キリリッ、コロロッと心地よい声が谷津に響き渡ります。畦の穴の中で鳴いていることが多いのでなかなか姿は見られませんが、田起こしをしていると飛び出してくることがあります。全身が緑色のカエルなのでアマガエルと勘違いされることが多いのですが、よく見るとニホンアマガエルには鼻から目、耳にかけて黒褐色の帯が入っているのに対してシュレーゲルアオガエルにはこれがないので見分けることができます。鳴き声もアマガエルはゲッゲッゲッ、クワックワックワです(そう、輪唱でみんなが知っている唱歌で歌われている声の主です)。



のどを膨らませて鳴くシュレーゲルアオガエル

シュレーゲルアオガエルは畦の中に白い泡に包まれた卵を産みます。木に白い泡の卵を産むモリアオガエルがよく知られていますが同じアオガエル科の仲間です(ニ

ニホンアマガエルはこちら



畦の穴に産み付けられた卵塊

ホンアマガエルはアマガエル科)。時折、穴から出てしまった卵塊が田んぼにプカプカ浮いていることがあるので、見つけたらよく観察してみましょう。穴の中に産み付けられて日光が当たらないので他のカエルと違って卵が白い色をしています。2月号で紹介したニホンアカガエルと違って指にはカエルらしい吸盤が着いているのは、上陸したカエルが斜面林の木の上で暮らしているからです。斜面林から台地の上の畑を越えてかなりの距離を移動することが知られています。シュレーゲルアオガエルは田んぼだけではなくて谷津全体を生活の場所としているのです。(高山)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第73回 下大和田 YPP「古代米の田植え」

コシヒカリに続いて古代米の田植えをします。緑米、黒米、赤米の3種類をみんなでわいわいにぎやかに植えましょう。アカトンボの仲間が羽化を始める頃です。どんな生きものに会えるか楽しみにお出かけ下さい。

日時: 2007年6月24日(日)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など>料金は520円)

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第24回 小山町 YPP「古代米の田植え」

昨年復活させた田んぼに緑米、黒米、赤米の2種類の古代米を植えます。小さな田んぼですが、元気に田植えをしましょう。生きもの観察もしますよ。

日時: 2007年6月17日(日)10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、飲み物、筆記用具など

参加費: 100円(資料代など)

第90回 下大和田 7月の谷津田観察会とごみ拾い

花は一服ですが、夏の虫は元気です。くぬぎ酒場も開店しています。ホトトギスの声を聞きながら谷津を散策します。

日時: 2007年7月1日(日)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター



田んぼにプカプカ気持ちよさそうに浮かんだニホンアマガエル

編集後記 *早いものでもう梅雨の季節が迫ってきました。記録的な暖かさの冬でしたが4月が例年より暖かくならなかったのがたいいいつも通りの季節に戻ったように感じますがいかがでしょうか?梅雨は稲がグングン伸びる季節。生長する稲を登ってナツアカネやノシメトンボなど赤トンボの仲間が羽化するのも間近です。(高山)